

## 成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成26年10月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成26年10月23日(木) 開会：午後2時10分 閉会：午後4時5分  
会場 成田市役所5階503会議室

### 出席委員

委員長	小川 新太郎	委員長職務代理者	高木 久美子
委員	福田 理絵	委員	佐藤 勲
教育長	関川 義雄		

### 出席職員

教育長	関川 義雄 (再掲)		
教育総務部長	深山 芳文	生涯学習部長	藤崎 祐司
教育総務課長	伊藤 和信	学校施設課長	藤崎 宏行
学務課長	柳 鶴 暁	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	木川 義夫
図書館長	須賀澤 賢治	生涯学習課課長補佐	木内 悦夫
保育課長	伊藤 昭夫	保育課課長補佐	菱木 澄子
教育総務課課長補佐(書記)	加瀬林 操		

### 【会議概要】

#### 1. 委員長開会宣言

#### 2. 教育長報告

#### 主催事業等

○9月20日 市内小学校運動会について

豊住小学校の運動会に出席、豊住小は地区運動会も兼ねて実施しているため地区の方々の参加も非常に多く、他の学校の運動会とは少し趣が異なり大人と子どもが一体になって楽しんで

いたように思う。ただ、子どもの数は年々減少し、2年生に至っては在籍5名で、すべて女子、うち2名は双子の姉妹のため4世帯5名という状況。今後、当分の間は、学校統合はしないとされているが、次年度は複式学級ができてしまい、これを解消するために増置教員を担任にする等、厳しい学校運営を強いられ今後の状況が心配である。

○9月22日～10月16日 千葉県北総教育事務所長、次長、管理訪問について

9月22日、前林小学校で北総教育事務所長訪問があった。前林小学校は普通学級が6学級に特別支援学級が知的と情緒各1学級、学年在籍児童数は、どの学年も10名前後。特に、2年が10名、3年が6名のため本来はこの学年同士で複式学級編制となるが、増置教員1名を活用して複式解消をしている。そのため全ての教諭が、どの時間も授業をしていることになり、学校として全く余裕のない事態となっている。子どもは比較的落ち着いてよく学んでいたが、現1年生も8名と少なく、次年度以降、統合まで小規模学校体制が続く。小規模の特性を生かした学校運営ができるよう支援していきたい。10月2日、橋賀台小学校での所長訪問に参加した。橋賀台小学校では児童の19パーセントが一人親家庭であるということで、35人の学級であれば6～7人程度の児童が少なからず厳しい環境に置かれていることになるわけである。どの学級も各担任がよく努力していたが、今後も引き続きこうした状況を教師がきちんと理解し一人ひとりの子どもの思いを感じ取って、指導に当たってもらいたいと強く思った次第である。

○9月27日 明治大学・成田社会人大学3課程合同特別研修について

午前9時に市役所を出発し、明治大学駿河台校舎にて明治大学・成田社会人大学のフィールドワークに参加した。受講生は150名を超える参加があり、大型バス4台での実施となった。昨年度までの反省から今年度はバスでの出発時間を1時間ほど早め、午前中に明治大学に行き、それぞれ自由に大学内を見ていただくなど、ゆとりのある時間を設定した。私は当日午後の講義にも関係する作詞家「阿久悠」氏の記念館を見て回った。記念館は明治大学アカデミーコモンの地下1階にあり、今まであまり意識していなかったが、阿久悠氏は、明治大学文学部のご出身で、これまで数多くの優れた曲の作詞を担当していたことに驚いた。記念館では阿久悠氏の作詞した曲のほとんどを聴くことができるようになっており、狭い空間ではあったが、心地よいひと時を過ごすことができた。午後は、明治大学国際日本学部教授の吉田悦志先生の「阿久悠論—作詞作品と文学—」と題する記念講演をお聞きすることができた。これまで意識したことのない作詞家「阿久悠」がどのような思いで様々な作品を書き上げたのか、よくわかる大変興味深い講演で本当に楽しく受講することができた。その後は、昨年同様、これまでご協力をいただいていた明治大学職員と受講者である成田社会人大学の学生との懇親会が開かれ、それぞれ大変充実した1日を過ごすことが出来た。昨年も思ったが、明治大学のここまでのご

協力に心から感謝したい。

○10月 2日 2014POPラン大会第2回実行委員会

11月30日(日)に開催予定のPOPラン大会の実行委員会が行われた。今年の参加予定者数は、5,511名。その内県内参加予定者数は、4,380名ということであった。3部門で一番参加者が多いのはハーフマラソンで2,803名、少ないのは3キロメートルの部で1,225名、10キロメートルの部には1,483名のエントリーがあったということである。招待選手は、今年も佐倉アスリートクラブで指導を受けているユニバーサルエンターテイメント所属の4選手が、それぞれの部門に出場する予定。なお、今回の参加賞は、市制60周年記念という文字の入った大きめのタオルにした。当日は委員の皆様も大会顧問ということですのでご協力をお願いしたい。

○10月8日 成田市教頭会議について

教頭会議には4月の会議以来出席しておらず、今回が本年度2回目の出席である。教頭は学校で実施する教育の全てを掌握すると共に、自らも直接、児童生徒の教育指導に当たっていることから、校長と教職員との間に入り調整するという大事な役目も担っている。校長の経営方針を具体化し職員一人一人が意欲を持って児童生徒の指導にあたるよう努めなければならない。そういう意味においては、学校を動かすことのできる立場にある。教頭としての自覚と責任、これから自らの学校経営の最高責任者となるにふさわしい力量と資質を十分発揮できるよう支援していきたいという思いで会議に出席した。今後も機会があればこの種の会議や研修会に出席し適切な助言や指導を行っていきたい。

○10月11日 第3回成田スポーツフェスティバルについて

各委員の皆様にご参加頂いているので特段説明の必要もないと思うが、市民運動会からこのスポーツ大会になって3年目、ようやく成田の形が出来つつあるように思う。参加者は昨年に比べて明らかに増えてきていることが実感できるし、市内の専門学校や企業も協力的である。当日は市立保育園の運動会とも重なっていたが、この勢いは本当に素晴らしいものだと感じた。できれば、まだ参加したことのない市内の専門学校や小中学校、高校に呼びかけ思い思いの小グループでも参加できる楽しみがあることを周知していけたらと思う。今回の大会運営に尽力していただいた関係団体の皆様、そして何よりも早くから準備してくれた市職員に対し、感謝したい。

○10月15日 体育科公開研究会の開催について

加良部小学校で千葉県小中体連印旛支部指定、成田市教育委員会指定の体育科公開研究会が開かれた。研究主題は「運動の楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む子の育成」である。午前と午後、授業展開が2時間ありあいにくの雨天にも関わらず大勢の参観者があり盛況

であった。授業は公開に向けてよく吟味され工夫されており、参観者に与えたインパクトも強かったのではないかと。展開したどの学級も子どもたちがひたむきに取り組む様子を見て研究主題がよく理解され、職員一人一人に浸透しているからこそこうした姿を見られたのではないかと思っただけである。公開研究会に向けて熱心に取り組めば取り組むほど得るものは確かに大きいと、逆に職員には負担感も増してくるもの。今後、ここで得たものを、通常の学校運営でしっかり生かして欲しい。

#### ○10月18日 下総みどり学園文化祭について

小中一貫校として初めての取組となる文化祭を見学した。1年生から9年生までの発表や、午後の模擬店など大変盛りだくさんで、多くのお見えになっていた。小中一貫校がスタートした直後は低学年の子に一部落ち着かない状況を見ることがあったが、この日の発表会はよく指導され、その成果を着実に発表するなど順調に育ってきていることを確認できた。指導されている先生方のご努力に敬意を表したい。また、模擬店の開催にあたっては保護者の協力が欠かせないが、多くの方の熱意はしっかりと感じる事ができた。

#### ○10月19日 小学生タグ取り鬼ごっこ王座決定戦について

市制施行60周年記念事業として、成田市では初めての「タグ取り鬼ごっこ」の小学生大会が中台体育館で行われた。52チームが参加の予定だったが、この内2チームが他のスポーツ大会に参加することになり不参加となったため50チームでの大会となった。大会は低学年、高学年という分け方だったのでチーム間で学年の違いによる力の差は当然あったが、どのチームの子どもたちも大変元気にしかも楽しく参加できたようで良かった。結果は、低学年の部で「成田スネーキーズC」、高学年では「大須賀魂ファースト」が優勝した。このチーム名だけではよくわからないと思うが、学校の友達が集まったチーム、サッカーやバスケットなどのスポーツ少年団のチームなど様々なチームの参加があった。特に決勝に残った高学年チームは遠山小学校と大須賀小学校の2校。それぞれ6年生主体のチームで良くまとまってなかなか見ごたえのあるゲームとなった。優勝した大須賀小学校の子どもたちと学校職員が喜んでいる姿が印象的だった。

### 市議会

#### ○10月20日～22日 決算特別委員会について

平成25年度の一般会計他8会計の決算について、委員長を含め8名の議員で組織された決算特別委員会において審査が行われた。教育費関係では事前に32項目の質疑の通告があり、あらかじめ回答を用意していたが、担当課長にとっては緊張の時間であったと思う。内容的には何ら指摘されるような不備はなかったが、今後の課題としてコミュニティーバスやオンデマンド交通、借り上げバス、そしてスクールバスなど、交通体系を全庁的立場で一括

して整理し効率的で効果的な運用を図れるよう努めることがあげられた。教育委員会としても大栄地区の小中一貫教育校の新設に伴い通学用バスをどのようにして走らせるか検討する中で良い策を見出していきたいと思う。

## その他

### ○9月22日 総合計画策定委員会について

「総合5カ年計画2011」ローリングの財政状況最終案、実施計画ローリング主要事業報告書の最終案が示され次期総合計画の策定について提案があった。今後もしばらく大規模事業が続くが、本当に必要な事業、廃止する事業、見直しすべき事業等、しっかりと見極めていかなければならない。外部委員による教育委員会の事業評価も行われているが、こうした中であげられた声に耳を傾け教育委員会として目指すべき方向をしっかりと見定めていきたい。

### ○9月24日～9月29日 新規採用職員面接について

今年度も大勢の受験者の面接を行った。将来の成田市の行政運営を担う人材を選ぶということで責任は重い。面接では主に人間性や社会性、ストレス耐性など将来に生きて働く力を見抜くことに重点を置いて選考にあたった。選考結果はすでに出ているが、難関を突破してきた若い人材である。しっかりと育つよう、先輩職員が範を示せるようにしたい。

### ○9月30日 成田市制施行60周年記念事業「友情～秋桜のバラード～」成田公演について

市内中学3年生全員を対象とした記念事業「友情」～秋桜のバラード～を観劇。松方弘樹、釈由美子、佐藤蛾次郎、おりも政雄など有名俳優が多数出演した演劇で内容は白血病の中学生少女が転校先の学校で出会った友達との友情を描いた作品で非常に感動的な内容で見ていた中学生たちの多くが涙を流すほどの素晴らしいものであった。この劇には小泉市長も特別参加し場を盛り上げていたが、講演の内容が白血病の治療で髪の毛が抜けてしまった少女の気持ちに寄り添い友達みんなが病気の友達と同じように髪の毛を剃ってしまうというもので、なんと中学生役で出演した俳優、男女に関係なく全員が本当に髪の毛を剃っていたことに感銘を受けた。いくら役のためとはいえ、ここまでやるということ、本気だということ、本気だからこそ心が伝わるということも多くの中学生在が感じ取ってくれたのではないかと思う。この劇の中で、「心を言葉に表すことができれば、きっと思いは伝わる」というセリフがあったが、まさにその通りだと思った。中学生だけでなく私たちもそのような態度で仕事に臨むことが必要だと感じた次第である。

### ○10月5日 成田市国際市民フェスティバル2014・子ども会まつりについて

当日は各委員さんにもご出席いただいたので特に説明の必要もないが、台風18号の影響であいにくの雨にも関わらず大勢の方々に参加していただき、大変盛大に実施することができた。特に外での模擬店販売は、降りしきる雨の中、準備から販売、後片付けと本当に大変

だったと思う。しかし、おかげさまで参加された皆さんは十分楽しめた様子であり、細かな点ではいろいろと反省すべき点はあると思うが、本年度のイベントも成功裏に終了できたのではないかと思う。

#### ○10月 5日 市民文化祭2014（なりた川柳大会）について

国際市民フェスティバルと同日開催だった川柳大会の開会式典に参加した。今年は市制施行60周年を記念しての大会ということで、課題もこの60周年にちなんだものを選んでいただいていた。参加されていた方々は年配の方がほとんどだったが、皆さんそれぞれ創作意欲に満ち溢れていて大変活発にご自分の思いを語られていたのが印象的であった。

#### ○10月10日 印旛郡市地方教育委員会連絡協議会教育委員長会議について

印教連の各委員長さん方の会議である。会場は事務局を担う市が担当しているため、今年も成田市で開催した。本市からは委員長にご出席いただいているので詳細は委員長から述べていただいた方がよろしいかと思うが、この日は県の中央児童相談所の相談措置課長さんにおいて頂き、「子どもを守るための市町教育委員会と児童相談所との連携の在り方」と題し児童相談所の取組の現状と課題についてご講話いただいた。

#### ○10月11日 NARITA花火大会 in 印旛沼9thについて

今年で9回目となった恒例の花火大会、セレモニーに参加した。当日は昨年同様大変な混雑で、会場となる「はなのき台」地区周辺が大勢の人であふれていた。私は途中で退席したが、約1万発の花火が夜空に広がり見る者の心を和ませてくれた。これだけのイベントを実施するには、関係者の並々ならぬ努力と周辺地域の理解と協力が必要である。これを楽しみにしている方々も大勢いらっしゃることは思うが続けることもまた大変であろう。

#### ○10月18日 大栄幼稚園運動会について

10月も半ばになると肌寒さを感じる。この日は幸い天候に恵まれ、素晴らしい一日になった。大栄幼稚園では今年度から3歳児から入園できるようになり園児数も増え大変にぎやかな運動会となった。運動会を見に来られた方々は園児のご両親以外におじいちゃんおばあちゃんも数多くいらっシャってほほえましい光景が見られた。子どもたちがいかに大事に育てられてきたかよくわかる光景であった。運動会は、よく指導されたと思われる場面が何度も見られ教育の力の大きさがよくわかった。小さな子が身体いっぱい大きな声で応援する姿は感動的ですらある。

#### ○10月18日 第47回関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会について

子ども会のいわゆる関ブロの大会が成田市で開催された。会場となったマロウドインターナショナルホテルには、400人ほどの大会関係者が集い盛大な会となった。私はこの大会の開会式典に参加したのみであるが、どの地域でも子どもの数が年々減少傾向にあり、子ども会に

入る子どもも同様の傾向があるようである。子育ては、家庭と学校だけでなく地域で育つといわれるが、市内中心部から少し離れた地域では子どもの数が著しく減少し、放課後や休日に子ども同士が集まって遊ぶことすらできない現状がある。地域で育てるところか地域に出てこられない家庭の子が多いのだ。子ども同士が遊びの中で学ぶことはたくさんある。しかしながら現状はとても難しい状況にある。そういう意味でも子ども会の果たす役割は大きい。今後の展開には、関係者のより一層の工夫と熱意が必要である。

#### ○10月18日 市民文化祭2014（短歌大会）について

短歌会の表彰式に参加した。表彰式前に選ばれた32句について、それぞれ選んだ理由について意見を交わす場面も参観したが、なかなか鋭い意見が続出し、緊張感のある場面も感じた。選ばれた句の中で最も票の多かった句が市長賞に、以下、議長賞、教育長賞、文団連会長賞と順次表彰を行った。この会も川柳会と同じく年配の方ばかりで、これを継続していくには、もっと若い方々にも興味関心を持っていただかないと運営が難しくなるのでは、と感じた次第である。

#### ○10月19日 日本少年野球若潮大会について

硬式ボールでゲームをする少年野球には、リトルリーグとボーイズリーグがよく知られているが、日本少年野球連盟はこのボーイズのことをいう。本大会は中学校1年生だけが対象の大会ということで、県内外から16チームが参加して開催された。関係者の話によると最近では野球をする少年が減っているということだったが、それは他のスポーツでも同じで、子ども数の絶対数が減っていることによるものだと思う。連盟関係者も今後の運営に危機感を抱いている様子が感じられた。

#### ○10月19日 折り鶴平和使節団長崎派遣報告会について

もりんぴあこうづ、MORI×MORIホールで開催された。私は他の行事の都合で報告会のみ参加だったが、当日は平和映画「夏服の少女たち」の上映と日暮淑さんの戦争体験講話「命の分かれ道」そして成田市折り鶴平和使節団長崎訪問報告会が行われた。昨年からは始まった中学生の平和使節団だが、市内全中学校11校の代表として11人の中学生が長崎に折り鶴を届けると同時に8月9日の平和祈念式典に参加したり、全国から集まった中学生たちと平和について学んできたことを報告会の中で発表した。成田市からは代表の中学生の他に担当課である広報課職員1名、教育委員会から指導主事1名、平和啓発推進協議会から1名の計14名が参加した。中学生たちの報告は本当に素晴らしく内容的には、ほぼ完璧なまでによく仕上がっており聴く者に感動を与えた。発表には指導主事や平和啓発推進委員の適切な指導や助言があったことはいうまでもない

《教育長報告に対する主な質疑》

委員：橋賀台小学校におけるひとり親家庭の割合は、19パーセントとのことだが、これだけ多いのは特別なことか。

関川教育長：学校により差はあるが、ほとんどの学校において10パーセント以上がひとり親家庭となっている。本日訪問した本城小学校も18パーセントとなっており、ひとり親家庭に加えて祖父母が孫を育てている家庭もあり非常に厳しい状況になっている。

委員：スポーツフェスティバルの参加者は、何名か。

大矢生涯スポーツ課長：まだ集計中だが、事前申込みが2,427名、当日参加を含めると延べ3,000名を超えている。

委員：昨年の参加者は何名か。

大矢生涯スポーツ課長：昨年は約2,000名。

委員長：だいぶ増加している。

大矢生涯スポーツ課長：チーム数もかなり増えている。教育長報告のとおり、昨年は、NAAや米屋、今年は、空港グランドサービスなど民間の企業チームにも参加をいただいた。また、専門学校や成田北高校も参加しているが、市内の学校や若いチームがもう少し参加すれば、子ども、若手から成壮年、高齢者層まで幅広いスポーツフェスティバルになるのではないかと考えている。

委員：関連して、各チームの応援旗がなびいておりすごく良かったが、知人から旗が多くて催しが良く見えなかったとの意見をいただいた。

大矢生涯スポーツ課長：昨年も団体戦申込者には、チームの応援旗を作っていたが、今年はチーム数が増えたのでさらに応援旗が増えた。

委員：準備体操は実施しなかったのか。

大矢生涯スポーツ課長：各自、対応をお願いしている。

委員：怪我がなければいいが、全員で実施した方がいいかと思う。3回目のフェスティバルであり非常に期待していたが、2020年のオリンピックを視野に入れた競技や、地域に在住で結構有名なアスリートの方がいるので、そのような方々にもご協力をいただければと思う。

委員長：実際に西中学校在籍時にリレーの全国大会で優勝し、大学に進んだ生徒がいたが、その方などは参加していたか。

大矢生涯スポーツ課長：今回は、団体戦に参加。

委員長：結構そのような人材がいるので、活用を検討していただきたい。

委員：男女区別のない綱引きで、女性だけのチームが準決勝まで進んだが、印象のあるチームなので、このようなチームに特別賞の枠を検討されては。

大矢生涯スポーツ課長：実行委員会が組織されているので、事務局から報告をさせていただきたい。

委員：運動公園の外にスポーツフェスティバルの開催を知らせる看板は設置したか。昼で退席したが、沿道で何をやっているのか聞かれたりした。参加はしないが観戦して楽しみたいという方もいると思う。

大矢生涯スポーツ課長：見に来ていただき、応援したりニュースポーツ体験など誰でも参加できる競技も用意されているので、看板などの周知も検討していきたい。

委員長：学校関係で台風18・19号の被害は。

柳鶴学務課長：台風18号については、市内の学校全てに臨時休校の指示をした。本来は学校長の判断だが、大きな台風であったことと給食の配送が困難であることから教育委

員会で休校の指示を出した。一部校庭が冠水したとか、雨漏りがあったとかの報告はあったが、児童生徒への被害はなし。19号については、各校の判断で一部始業時間を遅らせた学校があったが、被害報告はない。

大竹教育指導課長：台風18号については、10月6日、月曜日に予定していたスクールコンサートが中止になった。スクールコンサートは、生徒をバスで移送するので金曜日に早めの中止決定を判断した。また、延期について検討したが、楽団や学校行事の調整が困難であるため今年は中止となった。

柳鶴学務課長：台風19号については、公津の杜小学校が修学旅行を予定していたが、延期とし、今のところ12月に実施したいとのこと。

委員：今年中止になったスクールコンサートは、対象は4年生で1度しか参加の機会がないが、来年度に行くことは検討できるか。

大竹教育指導課長：現状では、今年度中止ということで、来年度の新4年生と今年出来なかった新5年生が一緒に行えるかということになるが、会場のキャパシティや生徒の移送能力が問題になるので検討したい。

委員：玉造中学校の所長訪問に同行した。特に感心したのは少人数教育に力を入れている教育委員会の姿勢であるが、英語の授業を教えている先生も新任の方で、てきぱきと真剣に力を入れている様子が伝わった。

委員：国際市民フェスティバルは、大雨で駐車場の奥側が泥だらけになっていたが、近隣では、栄町のふれあいプラザや酒々井、佐倉の施設も全て舗装しており、成田だけが、砂利敷きとなっている。いつも思っていたが舗装の予定はないのか。

秋山生涯学習課長：手前が舗装されていて奥が砂利敷きの状態だが、今のところ予定はない。

委員：学校訪問をさせていただいたが、大須賀小の体育の授業では「技のヒントカード」というのがたくさん貼ってあり印象的だった。また、玉造中では、美術の授業で生徒がシャープペンを使用していたが、今は、シャープペンを使用しているのか。鉛筆も

いい面があると思うが。

大竹教育指導課長：私が指導していた時は鉛筆を使用させたが、指導者の考え方によるのでやむを得ないかと思う。シャープペン自体も昔よりいろいろなものがでていると思う。

委員 長：北総教育事務所の所長訪問は、9月22日の公津の杜小と吾妻中、9月25日の久住小、遠山中、10月2日の橋賀台小と玉造中、10月9日の豊住小と公津の杜中、10月14日の公津小と向台小に同行。たくさんの学校を拝見させていただいたが、やっぱり感じることは、子どもの方をしっかりと見て授業を行うことが必要だということ。子どもをよく見ないで授業を進めている先生方が多いと感じる。また、校長の学校経営説明の中で、皆さん学力向上と言うが、どの学校も同じようなことをやっていると感じる。よくやっていると感じたのは玉造中学校で、課題や宿題が終了していない生徒は、部活動に出席させないということを3年間徹底し、学力テストについても全国平均をはるかに上回る成績を上げている。学校訪問の際は、どの校長先生も学力向上を熱心に語られるが、結果として出なければ、果たして正しい教育方針でやっているのかと感じる。いろいろな学校を拝見させていただいたが、一生懸命頑張っている学校、あるいは一生懸命頑張っている先生もいるが、この授業内容で児童生徒が本当に理解できるのかというような学校もあったので、ぜひ今回の訪問を機に校長先生の指導もよろしくお願ひしたい。次に成田スポーツフェスティバルだが、去年は綱引きでかなり時間が経過して大変だったが、今年はスムーズな進行が出来たと感じた。次に、10日の印旛郡市教育委員会連合会の教育委員長会議だが、児童相談所から講師がお見えになり話の中で、「一人で100件以上の案件を抱えて大変な状況である」とのお話をされていたが、そのような大変な状況の中で子どもの虐待や子育て問題について悪戦苦闘されているということがよく分かった。また、教育委員会制度改革について、来年から制度が変わることにより印教連のあり方がどう変わるか議論がされた。次に、成田花火大会だが、近くから鑑賞できたので花火の中にいるようで非常に感動した。次に22日に佐倉市で開催された印旛郡市特別支援教育振興大会に出席。佐倉市の特別支援学級の子どもたちが佐倉の歴史や文化を劇にして発表したのが、とても素晴らしい劇だった。まだまだ、特別支援学級については、課題は多いように思う。昼休みに子どもたちが製作した作品を頒布していたが、成田市や、佐倉市など各市町で協力していただけるお店に無償で置かせていただき、売り上げは各学校にいくようなしくみが取れば、障害児教育に係る理解が進むのではないかと思う。

### 3.議 事

(議案第1号は、成田市教育委員会会議規則第22条第1項により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号 平成26年12月補正予算要求書の提出について

《審議結果》

可 決

<非公開を解く>

議案第2号 成田市立小学校及び中学校管理規則の一部改正について

【柳鶴学務課長 議案資料に基づき説明】

(要旨)

平成26年4月1日より、千葉県の行政職の職制が見直され、主任主事という職名が廃止され施行。行政職給料表が適用されている成田市立小中学校の県費負担事務職員の職制についても同様の措置が図られている。そのため、県費負担教職員の新たな級別区分に対応するため、「成田市立小学校及び中学校管理規則」の整備を図る必要があり、「成田市立小学校及び中学校管理規則第4条の表及び第9号様式」の表から、「主任主事」の項目を削除する。

《議案第2号に関する主な質疑》

委 員：現在の主任主事の待遇や、職務内容はどうなるのか。

柳鶴学務課長：昨年は、主任主事という職名の職員はいない。実際にいる場合は、副主査になる。職務については大きな相違はない。

委 員 長：県内の全市町村が同じ対応になるのか。

柳鶴学務課長：千葉県の職制を取り入れているので、ほぼ同様の改正になる。

《審議結果》

可 決

議案第3号 平成26年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（追加提案）について

【伊藤教育総務課長 議案資料に基づき説明】

（要旨）

成田高等学校ダンスドリル部が、本年8月2日・3日に大阪で開催された「全国高等学校ダンスドリル選手権大会2014ソングリーダー部門small編成」において全国第2位に入賞したため、「成田市教育委員会教育功労者表彰規則第4条」に規定する功績彰に該当するため今回追加提案をさせていただく。本案については、本来であれば9月定例会において提案をすべきものだが、成田高等学校からは、当時男子陸上競技部のみ推薦されていたことから確認をしたところ、ダンスドリル部も対象としていただきたいとの要望があったため、追加提案する。

《議案第3号に関する主な質疑》

委 員：表彰の何日前までに推薦の連絡があれば間に合うとか基準はあるのか。

伊藤教育総務課長：手続きが必要であり表彰式間近では難しいが、今回は、間に合った。  
最終的には、庁議に報告する。

委 員：明確な期日は。

伊藤教育総務課長：表彰者を報告する庁議日程によるが、今回のようなことも考えられるので、その場合は次年度に送るという検討も必要と考える。

委 員 長：結局は高校が推薦をしなかったということか。

伊藤教育総務課長：教育委員会で把握するにも限界があり、高校自体は推薦するという意識は持っていたとのこと。

委 員：陸上競技部を推薦するので、今回は遠慮したという訳ではないのか。

伊藤教育総務課長：問い合わせたところ、対象にさせていただきたいとのことだった。

委員：市としては、このような場合も推薦があれば対象にするということか。

伊藤教育総務課長：基準に合えば表彰する。

#### 《審議結果》

承認

#### (2) 報告事項

報告第1号 八生小学校及び公津小学校への児童ホームの設置について

#### 【藤崎学校施設課長 資料に基づき報告】

(要旨)

来年4月1日より、八生小学校と公津小学校に児童ホームが開設される。各施設の概要については、八生小学校に設置される八生児童ホームは、児童ホームは東側隅にある和室会議室を改造して整備することとしている。面積は33平方メートル、定員は15人で、指導員が2人配置される。公津小学校に設置される公津児童ホームは、北側教室棟の普通教室を改造して整備する。面積は64平方メートル、定員は35人で、指導員が3人配置される。いずれの小学校においても、学校運営に支障が生じないことを確認した上で校舎内への設置を受け入れた。両児童ホームが開設されることによって、平成27年度からは市内全小学校で児童ホームへの対応が可能となるので、子育てと仕事の両立支援が更に推進されることになる。

#### 《報告第1号に関する主な質疑》

委員：全小学校に児童ホームが設置されることは非常にありがたいが、教育長報告でひとり親家庭の比率が高くなっているとのことだったが、現状では受け入れ態勢は十分なのか。

伊藤保育課長：現状の待機児童は市内全域で80名程。そのうち半数が公津の杜小で、現在児

童ホームの増設工事をしているため、それが完成すれば解消される。それ以外は、成田小学校や三塚小学校に10名程度待機児童がいるが、それらについては、第2児童ホームの整備を検討している。

委員：予算面など問題はあるが、ぜひ進めていただきたい。

委員：児童ホームの閉所時間は、午後7時までとなっているが、問題はないか。

伊藤保育課長：現状では、問題にはなっていないので、再延長は考えていない。

委員：現在、八生小学校と公津小学校の児童は、他の児童ホームに通っているのか。

伊藤保育課長：公津小学校については、隣接する宗吾保育園に低学年の児童の預かり制度がありそちらに16名通っている。今回、公津小学校に児童ホームが完成すればこちらに通われると思う。八生小学校については、そのような施設がないが、夏休みだけ近隣の美郷台小学校や豊住小学校に、休みの期間だけ預けられている児童がいる。

委員：夏休みだけの利用も可能か。

伊藤保育課長：基本的には、夏休みだけの利用も可能。

委員：公津小学校は、定員が35人で指導員が3人とのことだが、もし通われる児童が16人でもそんなに必要なのか。

伊藤保育課長：成田市では、35人の定員どおりだと3人だが、34人以下では2人になる。

委員長：管理についてだが、職員は5時で退庁されるが、カギの管理はどのようにするのか。

伊藤保育課長：警備は、機械警備になっているので、分離できるようにする。

委員長：児童ホームの場所以外には入れないようにするのか。

伊藤保育課長：八生小学校は、校舎の端の宿直室だったため校舎側と完全に分離できるが、公津小については、完全に分離が出来ないため内部に柵などを設置して児童が入れないようにする。

委員長：トイレは。

伊藤保育課長：公津小はドアを出たところに、外トイレがあり、八生小学校は、もともと宿直室だったため部屋の中にトイレがあり、子どもたちには不便はかからない。

報告第2号 特別支援教育就学奨励費の支給について

【大竹教育指導課長 資料に基づき報告】

(要旨)

成田市特別支援教育就学奨励費については、5月の教育委員会会議定例会において、特別支援教育就学奨励費の支給対象を、本年度より対象者を拡大し、通常学級に在籍している「学校教育法施行令第22条の3」の障がいの程度に該当する児童・生徒の保護者も対象とすることを報告させていただいた。支給対象者の条件として、「学校教育法施行令第22条の3」の障がいの程度に該当する児童生徒であるか、「身体障害者手帳」又は「療育手帳」を持っている児童生徒であるか、病弱者については、「千葉県小児慢性特定疾患医療受診券」をもっているかを基本に申請を受け付けたところ、本年度については、3名の児童生徒の保護者から申請があり、成田市心身障害児教育支援委員会で審議していただき、支給対象とした。

《報告第2号に関する主な質疑》

委員：9月定例会議で就学援助費支給制度の支給対象費目を追加したことの報告を受けたが、同制度とは違うと思うが、経済的負担の軽減ということであれば、同じだと思うのでこちらについては費目は追加しないのか。

大竹教育指導課長：こちらの費目については文科省に準じており、全く同じ費目にはなっていない。要保護・準要保護認定対象の子どもは、そちらが優先になる。

委員：経済的な軽減を目的とすれば同じにした方がいいのでは。

大竹教育指導課長：制度の枠組みがちがっており、こちらについては、このような費目で設定してあるので、あとは市独自に追加することになるが、本年度は予算要求していない。

柳鶴学務課長：就学援助費支給制度は、生活困窮家庭の保護者を対象としているが、本制度は、特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的な負担軽減を目的にしたもので、基本となる対象者が異なる。教育指導課長説明のとおり就学援助制度の対象になっていけば、そちらが優先される。

委員：今、学校では宿泊体験学習ということで、修学旅行ではなくなっている学校がある。こちらの経費の項目は、修学旅行になっているが、宿泊体験学習だと同じように支給しているのか。

大竹教育指導課長：支給している。

委員：そうすると、この費目の名称はこれで適正なのか。

関川教育長：小中とも修学旅行は、一回しか実施しない。6年生の宿泊体験学習は、修学旅行に代わる位置づけなので、修学旅行と同じだという見方をしている。

委員長：学校によっては、修学旅行が宿泊体験学習に代わってきているということか。

柳鶴学務課長：実際のところ、小学校の場合、修学旅行として位置づけをすると、1泊2日となるが、宿泊体験学習であれば、更に宿泊数を伸ばせる。学校の方針や活動状況に照らして、どちらで実施するのが子どもたちにより良いかということになり、修学旅行として1泊2日にするか、2泊をさせたいということで宿泊体験とするかということになる。教育委員会では、宿泊体験学習についても修学旅行に準じて実施するというので補助対象にしている。

委員長：修学旅行と宿泊体験学習の両方を実施しているところもあるのか。

柳鶴学務課長：宿泊を伴うものについては、6年生では1回。

委員：保育園や幼稚園でも障がいをお持ちのお子さんがあると思うが、このような制度はあるのか。

伊藤保育課長：所得に応じた保育料を負担いただくことになっており、生活に困窮している世帯は保育料が無料になる。修学旅行のようなものを行っているところはない。

委員：所得は同じでも難聴などで月に何度も病院に行く子どももいるので小学校入学前でもこのような手厚い制度を考えていただければと思う。

伊藤保育課長：お子さんの障がいについては、障がい者福祉課で補助制度を行っておりますので、そのようなお子さんのいらっしゃる家庭には、ご案内できればと思う。

#### 報告第3号 国際こども絵画交流展2014の出品状況等について

##### 【秋山生涯学習課長 資料に基づき報告】

(要旨)

今回は、テーマを「ふるさと－Home town－」とし、成田市内の小中学校33校より1,077点、海外の小中学校から16か国33都市655点の出品があった。9月16日に1次審査、9月23日に2次審査を行ったところ、国内の出品に特別賞20点、フレンドシップ賞40点、海外からの各国から1～2点を目安にフレンドシップ賞として34点を選定した。昨年同様、特別賞受賞者には、額に入った複製をお返しし、本物を海外の友好都市で展示していただく予定。また、10月25日～11月3日の間、成田山新勝寺大本堂第二講堂を会場として開催し、その後、市役所1階市民ロビーで11月17日から27日まで、巡回展示を行う。加えて、今年度の試みとして、成田国際空港 第1旅客ターミナル中央ビル5階のNAAアートギャラリーでも巡回展示を12月11日から25日まで行う。特別賞受賞者を対象とした表彰式は、平成26年11月2日に、成田山新勝寺大本堂第二講堂で予定している。

##### 《報告第3号に関する主な質疑》

委員：海外からの作品については、フレンドシップ賞だけだが、市内の小中学校は、特別

賞があるわけで同等の競争ではないという感じがする。海外からもいい作品があれば特別賞などを差し上げればと思うが。

秋山生涯学習課長：海外からの作品については、655点の中から半分程度の入選作品を選び、その中からフレンドシップ賞を選定している。半数の入選作品については新勝寺に展示をさせていただいている。特別賞については、予算等の都合もあり市内からの応募作品に限らせていただいている。

藤崎生涯学習部長：国際こども絵画交流展については、いろいろと変遷があるが、海外からの応募作に特別賞を設けない理由は、作品についてはテーマを設けているが、そのテーマにそぐわないとか必ずしも日本と同じ理解をしていただけなくて、全く違った作品が応募されたりすることが多く比較が困難になっており、そのようなことから交流ということで、フレンドシップ賞までにとということになっている。申し上げたとおり、せっかくの交流展なので3年前からお互いの絵を交換しようということで、日本の作品を友好姉妹都市で了解を得たところに送り、海外の絵を市内の学校で展示していただくということを主目的に行っている。

委員：これからは、国際化社会ということで、差をつけるという垣根を取ることが流れではないかと思う。参加点数にすると約4割が海外から来ているということは、規模的にも非常に熱心に参加いただいている訳なので、将来的にはフェアな選考をした方がいいと思う。

委員：市内33校から出品されており、その内入賞作は成田高校附属小学校・中学校の児童生徒が多くなっていますが、非常に優秀ということか。

秋山生涯学習課長：入賞選考については、絵を教えている先生方をお願いしているが、賞を与えることについては、作品の内容で選んでいただいている。

関川教育長：国際こども絵画交流展だけではなく交通安全のポスター展など成田高校附属小学校、中学校の入賞が多くなっているので、学校をあげて指導に取り組んでいるのだと思う。公立小中学校の場合は、授業の題材に取りあげているのではなく、自主的に子どもたちに描かせているケースが多い。今回、テーマを決めているので、テーマに沿

って描くとなると学校の指導方針とテーマが合致しないと難しい。最近、本当に成田高校付属小学校、中学校の入賞が多いのでよく指導をされていると思う。

委員：応募作品1, 077点、全て審査しているのか。

秋山生涯学習課長：学校単位の応募ではないので、1, 077点、全て審査している。

委員：参加賞は、お渡ししているのか。

秋山生涯学習課長：応募者全員に参加賞を渡している。

委員長：審査は、3人の審査員で審査していると思うが、毎年、附属小中学校に偏っているわけではないと思う。また、委員からも話があったが、特別賞については、市内の作品に対して海外の応募作は、同じ理解がされていない、いわゆる壁があるとのことだが、フレンドシップ賞だけにしているとのことだが、実行委員会へ教育委員からこれからは国際化社会なので市内の学校の作品だけで審査するのではなく、先のことを見据えて海外からの作品も併せて審査をしていただきたいと要望されたい。それと、私の感想だが、2年ほど前に市内の小中学校、全校からの参加がない時もあるので、ぜひ全校に参加していただきたいと申し上げたことがあるが、今回、238点も増加しているのはとてもいいことだと思う。

### (3) その他

#### ・青少年健全育成事業の青少年音楽祭について

委員：青少年健全育成事業の青少年音楽祭について、自校の発表の時は鑑賞しているが、自分たちの学校の発表が終われば帰ってしまうなどの様子が見られる。また、吹奏楽も年々参加者が減少して楽器の運搬も苦労するような状況になっている。このような状況をどのように考えているの。

秋山生涯学習課長：青少年音楽祭については、市内15の健全育成協議会を統括する青少年育成市民会議が主催し、市は事務局的な役割を担っている。主体として運営に携わっているのは、青少年育成市民会議、各地区健全育成協議会。市としては、参加者のバス代等交通費は予算化しているが、楽器の運搬費は、それぞれの地区の協議会や学校の負担になっている。演奏が終わると帰ってしまうということだが、出場校分のバス

が用意出来ないため、どうしても自校の発表が終わった時間で帰らざるを得ないというのが現状で、ご指摘の問題については、青少年育成市民会議において地区の健全育成協議会の意見として提案をしていただき、改善が出来ればと考える。

関川教育長：音楽に熱心な学校は続けてほしいと思っており、熱心でない学校はやめたいと思っているが、発表の場を確保しないと子どもたちの意欲がなくなってしまうので、発表の場を他に確保してもらえれば青少年音楽祭という形でなくともよいかと思う。問題なのは経費で、吹奏楽は指導や運搬にお金がかかり、また、指導者についても職員は定期的に異動するので、せっかく造り上げても長続きしないなど大きな問題がある。根本的に考えていくには外部指導者を迎えるとか学校の体制を変えないと厳しいと考える。「無くしてもいいのでは」という相談を受けたが、「学校ともよく協議してください」と返答した。いろいろ問題があるが、最初から最後まで鑑賞するには、入りきれないので入れ替えをしないと難しいし、平日の実施なので、授業の関係で学校も1日時間を割くのは厳しいと思うので学校ともよく話をしたい。

委員：中学の合唱コンクールというのがあるが、下総みどり学園は5年生から9年生まで参加すること。中学生がコンクールをやっているところを次に参加する6年生に見せることは学習効果があると思うので、そのような取り組みも考えていただければと思う。

大竹教育指導課長 大栄地区では、小中連携教育の取組みとして以前から6年生全員を中学生の合唱コンクールに招待して中学生の合唱を聴いていただいている。

柳鶴学務課長：小中連携教育は中学校区ごとに、それぞれの思いがあり違いはあるが、例えば合唱コンクールに小学生を招待することは、中台など他の学区でもやっており、小中連携の取り組みが進んでいる。

委員長：例えば西中学校では、合唱コンクールで最優秀賞を取ったクラスが加良部小学校に出向くなどの交流を行っている。それぞれ、いろいろな取り組みをされていると思う。

委員長：高木委員から青少年音楽祭についてご意見を頂いたが、各学校についても負担になっている学校、熱心に取り組んでいる学校があるので、ぜひ意見を聞いていただきたい。

- ・公民館まつりについて
- ・なりきち第64号について

#### 4.委員長閉会宣言